

主の降誕 夜半のミサ

2016年12月24日 関口教会にて

[\[聖書朗読箇所\]](#)

説教

今日は、12月24日、主キリストのご降誕の前日であります。今から主の降誕の夜半のミサを献げます。

主のご降誕はキリスト教徒にとって、非常に大切な日であります。英語で、「Christmas(クリスマス)」というところから、多くの人に、クリスマスという言葉が知られるようになりました。「クリスマス」とは、「キリスト」と「ミサ」を一つにつなげた言葉でありまして、「キリストのミサ」という意味になります。

クリスマスのミサだけが、キリストのミサであるのではなくて、すべてのミサは、キリストのミサであり、教会は毎日、ミサをお献げしている訳です。

さて、今日、このように多くの方が、クリスマスのミサに参加いただいておりますことを、大変ありがたく、嬉しく感じております。

「ミサ」というものは、どのようなものだろうか。あまりご存知ない方も、多数いらっしゃるかもしれないと思い、少しお話ししたいと思います。

「ミサ」は、「感謝の祭儀」とも呼ばれており、前半と後半の部分に分けることができます。今、前半の部分を行っております。

前半において、わたしたちは、聖書の言葉、キリストの言葉を聞き、分かち合い、一緒に味わうこととなります。今、わたくしが行っているお話は、聖書の言葉、イエス・キリストの言葉を分かち合い、そして、生きるための助けとなる話でなければならぬのであります。

わたくしのお話が終わりますと、後半の部分に入ります。後半は、「感謝の典礼」と呼ばれます。パンとぶどう酒を神様にお献げし、感謝の祈りを献げ、最後の部分で、「コムニオ(communio)」カトリック教会では、「聖体拝領」と呼ばれる儀式が行われます。

わたしたちは、二つの食卓で、神の恵みを受けると言われています。前半と後半、前半は「神の言葉」という食卓に参加する、後半は、「キリストの体」の食卓に、参加するということになります。

また、この「キリストの体」のことを、カトリック教会では、「ご聖体」と呼んでおります。

キリスト信者として、心の準備ができた人は、一人ずつ、司祭の前に進み出て、

「ご聖体」をいただくことができます。

その際、司祭は、「キリストの御体（おんからだ）」と言いますので、「はい、そのように信じます。その通りです」という意味を込めて、「アーメン」と答えることになっております。「アーメン」と言う人は、「イエス・キリストを信じています。救い主であると信じます。そして、このパンとぶどう酒の中に、イエス・キリストが本当におられることを信じます」というような信仰を告白することになります。

そこで、毎年のごことであり、今日もそうですが、このように多数の方が、ミサに参加して下さった。

そのミサの全体を通して、参加していただけると、大変嬉しいのでありますが、「感謝の典礼」の最後の部分においては、「イエス・キリストを信じます」という人だけが、「ご聖体」と言われる、パンの形をしたキリストの体を、受けることになります。

そのことについて、説明がありますが、これが何のことなのか、なかなかお分かりになることができない。それは、無理もないことでもあります。そのために、今、少しだけ説明しましたが、お分かりいただけたかどうかは、分かりません。

ところで、この「ミサ」という言葉は、今、世界中で一番良く通じている言葉なのですが、実は、随分、後の時代になって登場してきた言葉なのです。

本来は、「聖体祭儀」、「感謝の祭儀」、「主の晩餐（ばんさん）」、「聖餐式（せいさんしき）」、いろいろな言い方で、この「ミサ」を呼んできていました。

「ミサ」missaという言葉の起源は、「ミッシオ」missio「派遣する」という言葉から、派生した言葉であると言われております。

イエス・キリストの受難と復活の記念である、お祈り、礼拝に参加した人は、最後に司祭から、「派遣の祝福」を受けます。

「派遣の祝福」は、どなたでも受けることができるものでありますが、「この世の中に、また帰って行って、この世の中をより良いものにするために働きます。そのために、どうぞ、力をください。どうか、頑張ってください。」というような意味を込めて、司祭の祝福が行われるのであります。

カトリック教会では、毎年、1月1日、元旦が、聖母マリアに献げられた日であるとともに、世界平和を祈る日になっております。

既に、来年の1月1日のための、教皇フランシスコのメッセージが届けられております。そのメッセージの内容をひと言で言いますと、「非暴力によって、世界の平和を建設しましょう。暴力によらないで、非暴力によって、平和を建設しましょう。すべての人に、非暴力で平和を建設しましょう」と呼びかけているのであります。

今日、ミサに来て下さったみなさま、心を合わせて、暴力を使わない、平和の実

現のために、ご一緒に力を合わせていただけるように、お願いいたします。

聖書朗読箇所

第一朗読 イザヤ9・1-3,5-6

第二朗読 テトス2・11-14

福音朗読 ルカ・1-14

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ、

地には平和、御心に適う人にあれ。」

[説教へ戻る](#)